

受益者のみなさまへ

毎々、格別のお引き立てにあずかり、厚くお礼申し上げます。

さて、「フィデリティ・ジャパン・オープン」は、第56期の決算を行いました。当ファンドは、わが国の取引所に上場されている株式を主要な投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

フィデリティ・ジャパン・オープン

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

第56期（決算日 2023年9月21日）

作成対象期間（2023年3月23日～2023年9月21日）

日経新聞掲載名：ジャパン

〈お問合せ先〉

フィデリティ投信株式会社
カスタマー・コミュニケーション部
東京都港区六本木七丁目7番7号 TRI-SEVEN ROPPONGI

 **0120-00-8051**（無料）

受付時間：営業日の午前9時～午後5時

 <https://www.fidelity.co.jp/>

お客様の口座内容などに関するご照会は、お申し込みされた販売会社にお尋ねください。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページから下記の手順で閲覧、ダウンロードできます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

〈閲覧方法〉

上記URLにアクセス⇒「ファンド情報」より「基準価額一覧」を選択⇒当ファンドの「運用レポート目録見書等」を選択⇒「運用報告書（全体版）」を選択

第56期末
（決算日 2023年9月21日）

基準価額	18,534円
純資産総額	58,419百万円
第56期 （2023年3月23日～2023年9月21日）	
騰落率	14.8%
分配金合計	450円

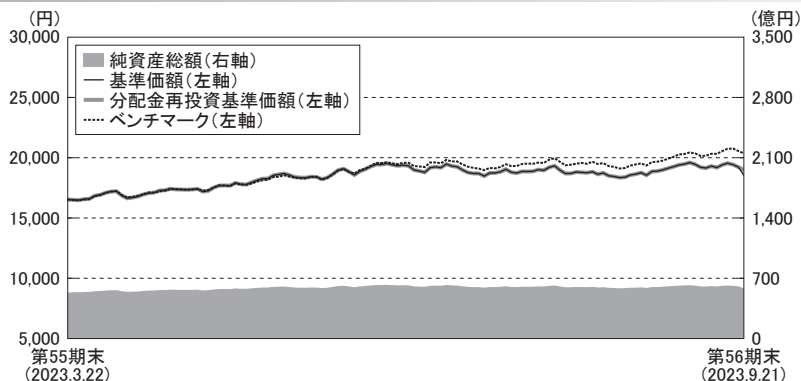
（注）騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

フィデリティ投信株式会社



1. 運用経過の説明

① 基準価額等の推移



第56期首: 16,535円

第56期末: 18,534円 (既払分配金450円)

騰落率: 14.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2023年3月22日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

- * 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客様の損益の状況を示すものではありません。

※ベンチマークは「TOPIX (配当込)」です。

※ベンチマークの詳細は、後述の「指数に関して」をご参照ください。

② 基準価額の主な変動要因

当期の当ファンドの騰落率は、+14.8%でした。

当ファンドは、フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド受益証券を組み入れることにより実質的な運用を当該マザーファンドにおいて行っております。

当期の日本株は、米国において利上げ減速や景気後退回避への期待が高まる中、海外有力投資家が示した日本株強気の見解や、日本企業によるガバナンス改革の更なる進展見通しなどを背景として海外投資家による日本株の買入れが進み、大きく上昇してバブル経済崩壊後の高値を更新しました。このような市場の動きに概ね連動する形で、基準価額も推移しました。

③ 1万口当たりの費用明細

項目	第56期		項目の概要
	2023年3月23日～2023年9月21日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	153円	0.828%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は18,435円です。
(投信会社)	(72)	(0.390)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(71)	(0.384)	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの 管理及び事務手続き等の対価
(受託会社)	(10)	(0.055)	運用財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	3 (3)	0.017 (0.017)	(b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	1	0.007	(d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(0)	(0.001)	保管費用は、有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等のために、海外 における保管銀行等に支払う費用。また、信託事務の諸費用等が含まれます。
(監査費用)	(1)	(0.003)	監査費用は、ファンドの監査人等に対する報酬及び費用
(その他)	(1)	(0.004)	その他には、法定書類等(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等)の作成、 印刷、提出等に係る費用や法律顧問、税務顧問に対する報酬及び費用等が含ま れます。
合計	157	0.852	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

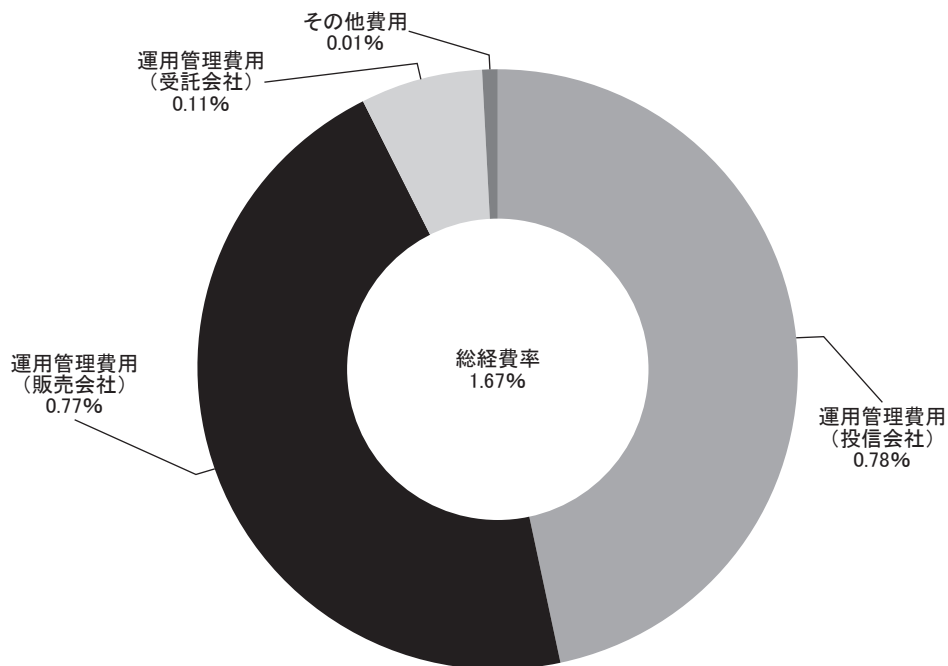
(注2) 「金額」欄は、各項目毎に円未満を四捨五入しています。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

●総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.67%です。



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

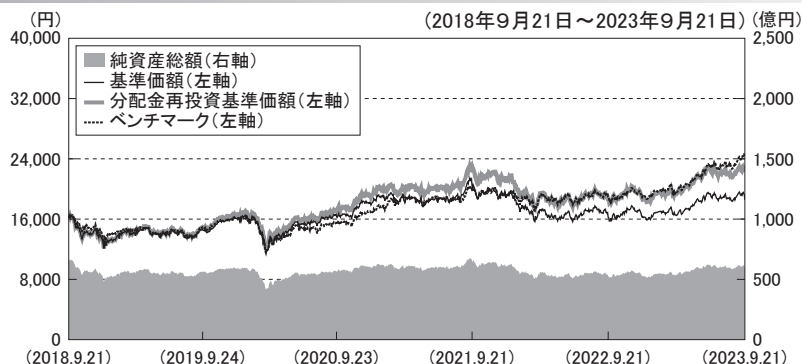
(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) その他費用には、保管費用、監査費用以外に法定書類等(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等)の作成、印刷、提出に係る費用や法律顧問、税務顧問に対する報酬及び費用等が含まれます。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

④最近5年間の基準価額等の推移



	2018年9月21日 期首	2019年9月24日 決算日	2020年9月23日 決算日	2021年9月21日 決算日	2022年9月21日 決算日	2023年9月21日 決算日
基準価額 (円)	16,193	14,547	16,366	20,387	16,252	18,534
期間分配金合計(税引前) (円)	—	400	400	900	650	800
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△7.6	15.5	30.4	△17.1	19.3
ベンチマーク騰落率 (%)	—	△7.9	3.9	28.3	△4.7	27.5
純資産総額 (百万円)	64,575	55,990	56,303	64,498	52,153	58,419

(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年9月21日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客様の損益の状況を示すものではありません。

※ベンチマークは「TOPIX(配当込)」です。

※ベンチマークの詳細は、後述の「指数に関して」をご参照ください。

⑤投資環境

当期の日本株は、米国のインフレ鎮静化が期待される中で始まり、3月末に上場企業に対して資本コストや株価を意識した経営をするよう東証が要請したことを好感する動きが広がったことなどを背景として、堅調に推移していきました。海外有力投資家が日本株への追加投資を表明したことも追い風となる中、日本企業によるガバナンス改革の更なる進展を期待する海外投資家による日本株の買入れも継続し、4月以降も上値を迫る展開が続きました。5月下旬には、米半導体大手の好決算を受け、AI(人工知能)向けの需要拡大が期待された半導体関連銘柄が株価を押し上げました。6月に入り、米国で債務上限問題をめぐる懸念が払拭され、米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げを見送るとの観測が強まると、株価は上昇基調を強め、6月半ばに日経平均株価は約33年ぶりとなる33,000円台を回復しました。その後はFRBの金融引締めが長期化すると懸念や日銀の金融緩和策の修正観測、また中国経済の減速懸念などに上値を抑えられましたが、米長期金利の上昇一服や米半導体大手の好決算を受けて8月下旬には反発し、注目されていたジャクソンホール会議でのFRB議長の講演内容が想定内となって市場に安心感が広がると、株価は上昇基調を強めました。そして円安ドル高を背景とした業績改善期待や米国の金融引き締め長期化に対する警戒感が和らぐ中、TOPIXは1990年以来となる高値水準を回復して期を終えました。

⑥ポートフォリオ

当ファンドは、フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド受益証券を通じて投資をしております。

当期についても従来通り、個別銘柄選択を重視したポートフォリオの運用を行いました。当期末の業種構成は、電気機器が最も大きな比率を占め、次いで、情報・通信業、化学、小売業、卸売業の割合が高くなっています。期中の業種構成の変化をみると、増えた業種は、主に銀行業、輸送用機器、化学、減った業種は、主に電気機器、卸売業、精密機器でした。これらの構成は業種配分を意図したものではなく、ボトム・アップ・アプローチに基づく個別銘柄選択の結果を示しています。

組入上位10業種

前期末

	業種	比率
1	電気機器	20.0%
2	情報・通信業	11.9
3	化学	9.7
4	卸売業	9.3
5	精密機器	7.5
6	小売業	7.2
7	機械	5.8
8	医薬品	5.2
9	保険業	4.4
10	輸送用機器	4.0

当期末

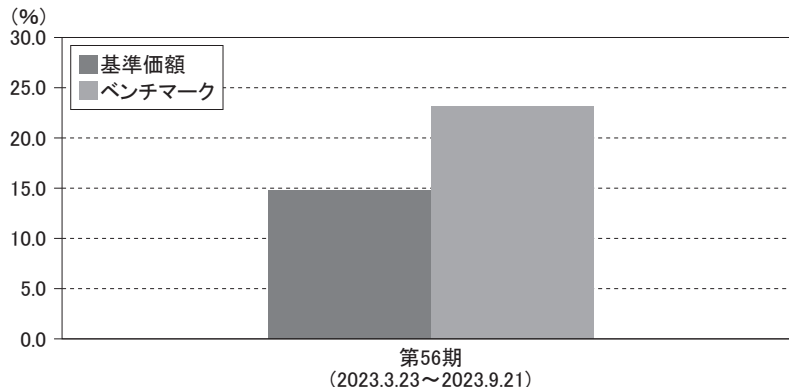
	業種	比率
1	電気機器	17.6%
2	情報・通信業	12.3
3	化学	10.8
4	小売業	7.5
5	卸売業	7.4
6	機械	6.0
7	精密機器	5.8
8	輸送用機器	5.7
9	医薬品	4.8
10	銀行業	3.7

(注)「比率」欄は、マザーファンドの純資産総額に対する割合です。

⑦ベンチマークとの差異

以下のグラフは、当ファンドの基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

当ファンドの基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)



(注)基準価額の騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

※ベンチマークは「TOPIX(配当込)」です。

※ベンチマークの詳細は、後述の「指数に関して」をご参照ください。

当期の当ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率の+23.1%を下回りました。

主なプラス要因については以下の通りです。

- ・個別銘柄選択では、第一三共の非保有、伊藤忠商事の組入比率をベンチマークに比べて高めとしたことなどがプラスに影響しました。
- ・業種配分では、当期中パフォーマンスが好調に推移した卸売業の組入比率をベンチマークに比べて高めとしたこと、逆にパフォーマンスが相対的に軟調に推移したサービス業の組入比率をベンチマークに比べて低めとしたことなどがプラスに影響しました。

主なマイナス要因については以下の通りです。

- ・個別銘柄選択では、トヨタ自動車の非保有、ミスミグループ本社の組入比率をベンチマークに比べて高めとしたことなどがマイナスに影響しました。
- ・業種配分では、当期中パフォーマンスが好調に推移した銀行業、輸送用機器の組入比率をベンチマークに比べて低めとしたことなどがマイナスに影響しました。

⑧分配金

当期の1万口当たり分配金(税引前)は、分配方針に基づき下記表中の分配額とさせていただきます。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

●分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税引前)

項目	第56期
	2023年3月23日～2023年9月21日
当期分配金	450
(対基準価額比率)	2.37%
当期の収益	—
当期の収益以外	450
翌期繰越分配対象額	12,599

- * 「当期の収益」および「当期の収益以外」は円未満切捨てのため、合計額が「当期分配金」と一致しない場合があります。
- * 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
- * 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」が当該決算期末日時点の基準価額を上回ることがありますが、実際には基準価額を超えて分配金が支払われることはありません。

2. 今後の運用方針

当ファンドにつきましては、引き続きフィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド受益証券を組み入れることにより、実質的な運用を当該マザーファンドにて行います。

当ファンドでは、持続的な成長性を重視し、長期的なフリーキャッシュフローの創出能力や高水準のROICを持ち、株主還元の拡大が見込まれる銘柄を中核に据えて運用を行ってまいります。いかなる危機をも乗り越えて中長期的かつ着実に成長していくことが出来るような企業群の中から、バリュエーションの割安度を吟味して投資していくことが重要であると考えております。ボトム・アップ調査によって発掘した銘柄を厳選して組み入れ、中長期的な観点から運用成果の向上を追求していく所存です。

3. お知らせ

該当事項はありません。

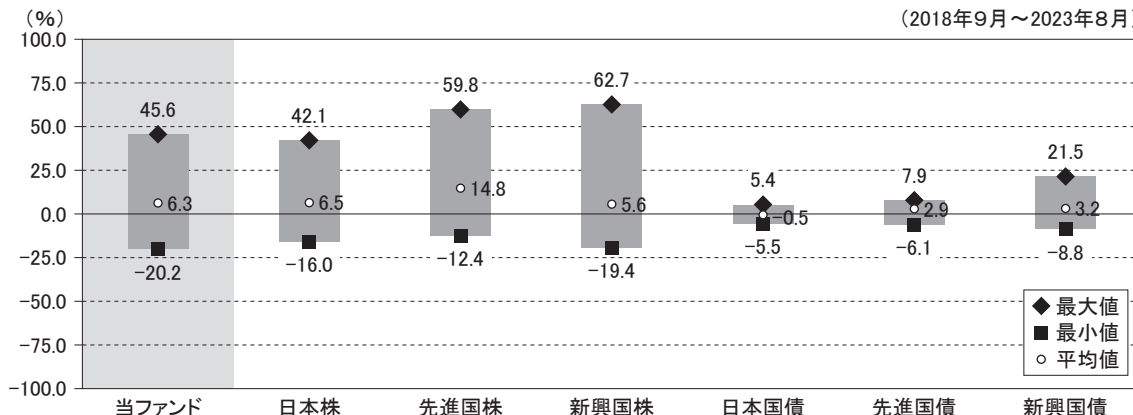
4. 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	原則無期限です。	
運用方針	信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。	
主要投資対象	ベビー・ファンド	フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド受益証券を主要な投資対象とします。
	フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド	わが国の取引所に上場されている株式を主要な投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ●フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式を主要な投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。 ●個別企業分析に基づき、わが国の高成長企業(市場平均等に比較し高い成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される企業)を選定し、利益成長性等と比較して妥当と判断される株価水準で投資を行います。 	
分配方針	<p>毎決算時(原則3月、9月の各21日。同日が休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の収益分配方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。 ●分配金額は、委託会社が基準価額の水準等を勘案して決定します。※ただし、必ず分配を行うものではありません。 ●収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。 	

5. 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年9月～2023年8月)



(注1) 2018年9月～2023年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注3) 当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注4) 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(配当込)

先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス(税引前配当金込/円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス(税引前配当金込/円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI 国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J. P. モルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、指数提供元にて円換算しています。

* 詳細は後述の「指数に関して」をご参照下さい。

6. 当ファンドのデータ

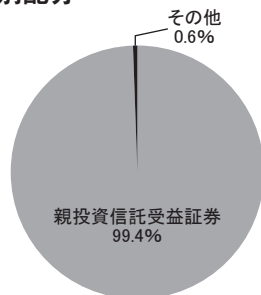
①組入資産の内容

組入上位ファンド

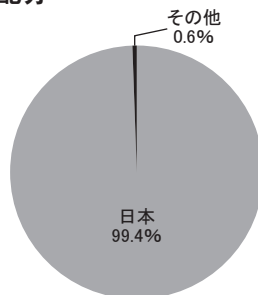
(2023年9月21日現在)

ファンド名	組入比率
フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド	99.4%
組入ファンド数	1ファンド

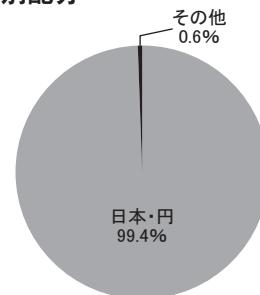
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注2) 国別配分は、発行国・地域を表示しています。

(注3) 「その他」には現金を含みます。未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

* 詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

②純資産等

項目	当期末
	2023年9月21日
純資産総額	58,419,470,347円
受益権総口数	31,519,753,770口
1万口当たり基準価額	18,534円

(注) 当期中における追加設定元本額は949,501,637円、同解約元本額は1,572,778,234円です。

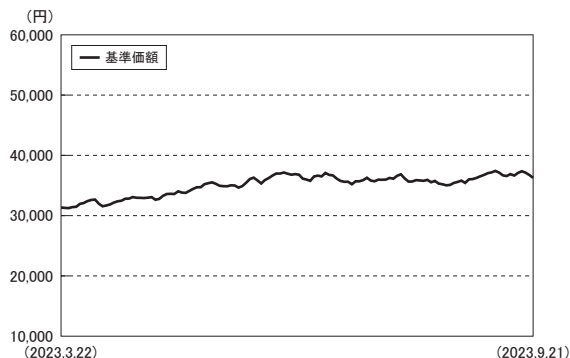
③組入上位ファンドの概要

フィデリティ・ジャパン・オープン・マザーファンド 基準価額の推移

(別途記載がない限り2023年9月21日現在)

組入上位10銘柄

	銘柄名	通貨	比率
1	伊藤忠商事	日本・円	4.2%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本・円	3.7
3	日立製作所	日本・円	3.7
4	東京エレクトロン	日本・円	3.5
5	キーエンス	日本・円	3.4
6	東京海上ホールディングス	日本・円	3.1
7	日油	日本・円	3.0
8	デンソー	日本・円	2.5
9	信越化学工業	日本・円	2.4
10	ファーストリテイリング	日本・円	2.3
組入銘柄数		87銘柄	

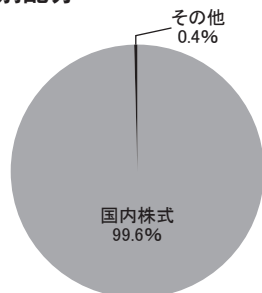


1万口当たりの費用明細

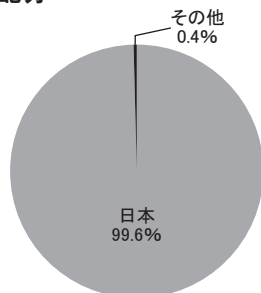
(2023年3月23日～2023年9月21日)

項目	金額
(a) 売買委託手数料 (株式)	6円 (6)
(b) 有価証券取引税	—
(c) その他費用 (保管費用)	0 (0)
合計	6

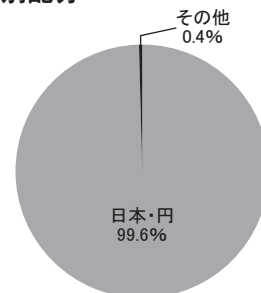
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、前述の「1万口当たりの費用明細」の項目の概要および注記をご参照ください。

(注2) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注3) 国別配分は、発行国・地域を表示しています。

(注4) 「その他」には現金を含みます。未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

指数に関して

●ベンチマークについて

- ・ TOPIX (配当込) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。
- ・ 東証株価指数 (TOPIX) (以下「TOPIX」という。) の指数値及び TOPIX に係る標章又は商標は、株式会社 JPX 総研又は株式会社 JPX 総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利・ノウハウ及び TOPIX に係る標章又は商標に関するすべての権利は JPX が有します。JPX は、TOPIX の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPX により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても JPX は責任を負いません。

●「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に記載の指数について

日本株	TOPIX (配当込)	東証株価指数 (TOPIX) (以下「TOPIX」という。) の指数値及び TOPIX に係る標章又は商標は、株式会社 JPX 総研又は株式会社 JPX 総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利・ノウハウ及び TOPIX に係る標章又は商標に関するすべての権利は JPX が有します。JPX は、TOPIX の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPX により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても JPX は責任を負いません。
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (税引前配当金込/円ベース)	MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した、日本を除く先進国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権は MSCI Inc. に帰属しております。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (税引前配当金込/円ベース)	MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した、エマージング諸国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権は MSCI Inc. に帰属しております。
日本国債	NOMURA-BPI 国債	NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及び NOMURA-BPI 国債に関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。
新興国債	J. P. モルガン GBI-EM グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	この情報は信頼性があると信じるに足る情報源から得られたものですが、J. P. モルガンはその完全性または正確性を保証するものではありません。このインデックスは使用許諾を得て使用しています。 J. P. モルガンによる書面による事前の承諾なくこのインデックスを複製、使用、頒布することは禁じられています。 Copyright © 2022 J.P. Morgan Chase & Co. 無断複製・転載を禁じます。

